

授業科目	国際ボランティア演習				単位	2		
履修	選択	関連資格			ナンバリング	EN21501J/ E		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	Kristen Maree Sullivan							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>持続可能な社会を創るためには、グローバルなパートナーシップや協力が欠かせない。この授業では、実務家教員として自身の国際交流の経験を生かし、受講者と一緒に国際協力の在り方や様々な形についてまず確認する。実務家の外部講師からも直接話を聞いて、国際協力の現状を確認し、私たちはどのような形で協力できるかについても確認する。色々な制限の中で、私たちにはどのような国際協力ができるかを調べ、考え、企画し、実施する。実施した内容に振り返り、問題点や改善点について考えた上で、今後、どのような形で国際協力に関わりたいかについて考える。ボランティアプロジェクトの内容によっては学外活動が伴う場合もある。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力の在り方について理解する。 2. 国際ボランティアプロジェクトを企画し、実施する。 3. 実施した内容に振り返り、問題点や改善点について考える。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	40	30	10	20	100	
知識・理解 (DP1-1)			10	5			15	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10	5			15	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)					5		5	
関心・意欲 (DP3-2)					5		5	
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)			5	5		5	15	
態度 (DP4-3)			5	5		5	15	
技能・表現 (DP5-1)			5	5		5	15	
技能・表現 (DP5-2)			5	5			10	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力の在り方について説明できる。 2. 国際ボランティアプロジェクトを企画し、実施することができると共に、実施したプロジェクトに振り返り、問題点や改善点について考えることができる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力の在り方について理解できる。 2. 国際ボランティアプロジェクトを企画し、実施することができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 授業の概要について説明する。			講義		予習・復習: 該当部分の予習・復習		60

2	国際協力について 国際協力とは何か。国際協力の歴史と現状を確認し、国際協力の様々な形について考える。今の私たちにはどのような国際協力を行うことができるのかについて考え始める。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
3	事前学習1 次回の授業で外部講師を務める方が所属する団体がどのような活動をしているかなどについて資料やウェブサイトなどを通して確認する。次回の授業で外部講師に聞きたいことについても考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
4	外部講師1 外部講師による講義	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
5	事前学習2 次回の授業で外部講師を務める方が所属する団体がどのような活動をしているかなどについて資料やウェブサイトなどを通して確認する。次回の授業で外部講師に聞きたいことについても考える。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
6	外部講師2 外部講師による講義	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
7	ボランティアプロジェクトの実施1 外部講師の所属団体に対して私たちはどのように協力して貢献ができるのか。皆さんは本科目を通してどのようなボランティア活動がしたいのか。本科目で実施するボランティアプロジェクトについて話し合っ、誰がどのプロジェクトに参加するかを大まかに決める。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
8	ボランティアプロジェクトの実施2 それぞれのグループで、プロジェクト内容を具体的に企画し、途中報告をする。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
9	ボランティアプロジェクトの実施3 それぞれのグループで、プロジェクトを実施し、途中報告を行う。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
10	ボランティアプロジェクトの実施4 それぞれのグループで、プロジェクトを実施し、途中報告を行う。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
11	ボランティアプロジェクトの実施5 それぞれのグループで、プロジェクトを実施し、途中報告を行う。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
12	ボランティアプロジェクトの実施6 それぞれのグループで、プロジェクトを実施し、途中報告を行う。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
13	ボランティアプロジェクトの実施7 それぞれのグループで、プロジェクトを実施し、途中報告を行う。(学外活動が伴う場合がある。)	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
14	ボランティアプロジェクトの実施8 それぞれのグループで、実施したプロジェクトに振り返り、問題点や改善点について考える。次回に開催する発表会の準備に取り組む。	演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
15	発表会、全体の振り返り・まとめ それぞれのグループに活動内容や成果、振り返りの結果などについて発表してもらう。可能であれば、協力団体の方にも参加していただく。今後、どのような形で国際協力に関わりたいか、持続可能な活動の在	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60

	り方、継続性のあるグローバル・パートナーシップの在り方についても考えよう。			
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	国際社会に対する興味関心と基礎的な世界情勢についての知識。			
テキスト	適宜資料を配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜授業中に紹介する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	北九州市内でもさまざまな国際交流・国際貢献・国際協力のイベントやプログラムが実施されています。是非一度参加してみてください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	振り返りレポート: 40% 最終回のグループ発表: 30% レポート以外の提出物(外部講師の講義に対する感想文): 10% その他(ボランティアプロジェクトへの取り組み状況や姿勢): 20% 詳細については授業中に説明します。			

	<p>課題・ボランティアプロジェクトの内容や進捗状況などに対するフィードバックは、適時に授業中に口頭で行ったり、Google Classroomの機能やメールを用いて行います。</p>
--	--